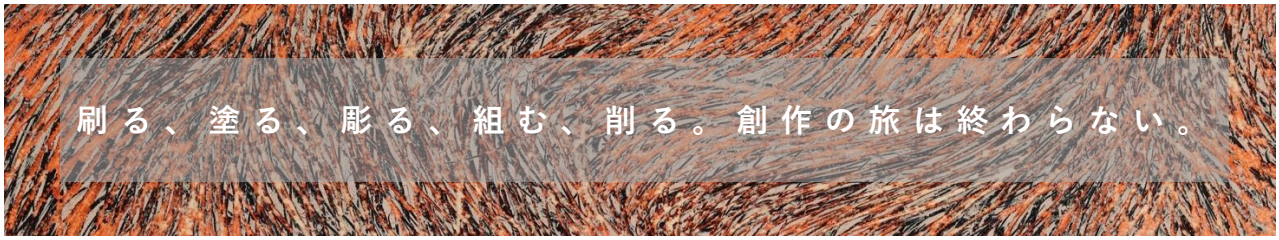
浜田　浄　めぐる　1975—

Kiyoshi Hamada　Journey—1975 and onward



展覧会の概要

展覧会名｜浜田浄 めぐる 1975－

会期　｜2025 年 2 月 8 日（土）－2025 年 4 月 13 日（日）
9：00～17：00（入館は 16：30 まで）＊初日は 10：00 からの開展式後に開場

会場　｜高知県立美術館 展示室 B、C

観覧料　｜一般前売 960 円、一般当日 1,200（960）円、大学生 850（680）円、高校生以下無料

※（ ）内は 20 名以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳 及び被爆者健康手帳所持者とその介護者（1 名）、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

【前売券販売所】県立美術館ミュージアムショップ、金高堂書店本店、こうち生活協同組合（コープよしだ、コープかもべ）、県庁生協売店、ローソンチケット［L コード：62494］

高知県黒潮町出身の美術家・浜田浄（1937－）の過去最大規模となる個展を開催します。

アンフォルメル、反芸術、もの派……。浜田はめまぐるしく移り変わる戦後日本のアートシーンを傍目に、東京都練馬区の小学校教員として勤めながら、自らの表現に妥協することなく手を動かし続けてきた美術家です。

もの派の作家たちを指導した斎藤義重（1904－2001）による、合板に電動ドリルで描いた作品に感銘を受けた浜田は、1975 年、38 歳の時に、シャープな直線が鮮烈な視覚効果をもたらす合板絵画を手掛けます。77 年にはそのイメージを版画として発表、一躍注目を集めました。以降、平面作品の制作を軸に据えながら、刷る、塗る、彫る、削る、組むといった行為の反復により、時間の蓄積を感じさせる独自の抽象表現を開拓します。

浜田の作品には、原則として具象的なモティーフは表れません。しかし、清新な緊張感をたたえた描線や彫線の連なりには、手作業ならではの温もりに加えて、自らが生まれ育った土地の記憶が息づいています。作品に登場するミニマルなフォルムや抑制的な色彩も突き詰めると、朱色に染まる夕陽、黒々とした夜の海、そして視界一面に広がる水平線といった、太平洋に面した故郷、黒潮町の風景に行き当たるのです。

本展では、作風の転機にあたる 1975 年から 2024 年の最新作までのおよそ 60 点を通して、浜田の制作が深化する過程を体感していただきます。それはさながら、浜田が 50 年にわたって切り拓いてきた表現の旅路を、ともに「めぐる」かのような体験となるでしょう。

本展のみどころ

① 初期から最新作まで網羅した、過去最大規模の回顧展

本展は、2015 年に練馬区立美術館で開催した「浜田浄の軌跡－重ねる、削る 絵画－」展以来となる浜田浄の公立美術館での個展であり、出品点数・規模ともに過去最大です。作家が自らの制作の起点と位置付ける 1975 年から現在に至るまでのおよそ 50 年の間に手がけた仕事を、初公開の新作を含むおよそ 60 点からご紹介します。素材や技法を変えながら深化を続ける、現在進行形の表現を一望できる貴重な機会です。

② ミニマルな構成や抑制的な色遣いに注目

浜田が 1975 年に発表した、アクリル絵具で彩色した合板を用いた「合板絵画」は、素材の点で合板にドリルで描いた斎藤義重の「ドリル絵画」を彷彿とさせます。「もの派」の作家たちを指導したことで知られる斎藤に、浜田は私淑して敬愛していました。その後、版画や鉛筆によるドローイングのシリーズへと展開した表現には、もの派が台頭し、コンセプチュアル・アートやミニマリズムが注目を浴びた 60 年代後半から 70 年代初頭の美術潮流の影響を見て取ることができます。

③ 「手を動かし続けた」ことが生み出す魅力

刷る、塗る、彫る、組む、削るといった、「自分の手を動すこと」に重きを置いた制作を続けたことが、膨大な時間の蓄積を感じさせる、浜田独自の抽象表現へとつながりました。また、その制作が、都内の小学校教員として働きながら「すきま時間」を駆使して続けられたという逸話もユニークです。
一時の流行に迎合せず、表現の質を保ちながら、自らの手で地道に堅実に続けてきた創作活動。デジタルでは置き換えられない時間の堆積と人間味が強く打ち出されているのが、浜田作品の何よりの魅力です。

④ 故郷・黒潮町の風景に由来する表現

初期から一貫して抽象表現を追求してきた浜田。その作品には具象的なモティーフこそ表れないものの、たとえばフォルムや色彩には、視界いっぱいに広がる水平線や黒々とした夜の海、鮮烈な朱色の夕日といった、黒潮町の風景を想起させる要素が潜んでいます。雄大な太平洋に面した故郷の記憶が息づく作品を、ぜひ当館でご覧ください。

作家プロフィール

浜田浄 はまだ・きよし

1937 年、高知県幡多郡黒潮町に生まれる。1961 年、多摩美術大学油画専攻を卒業。東京都在住。
主なグループ展に「日本の版画」（1985、栃木県立美術館）、「線の表現ー目と手のゆくえー」（1991、埼玉県立近代美術館）、「版画の 1970 年代」（1996、渋谷区立松濤美術館）、個展に「浜田浄の軌跡ー重ねる、削る、絵画ー」（2015、練馬区立美術館）などがある。

主催

主催｜高知県立美術館（公益財団法人高知県文化財団）、KSS さんさんテレビ
特別協力｜√K Contemporary
協賛｜ギャラリー枝香庵、セブンデイズホテル
後援｜高知県教育委員会、高知市教育委員会、黒潮町教育委員会、高知新聞社、ＫＣＢ高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティＦＭ放送

関連イベント

01.　開展記念トーク

日時｜2 月 8 日（土）13：30－14：30
会場｜1 階 講義室［参加無料］
登壇｜浜田浄（本展出品作家）×安田篤生（当館館長）
定員｜60 名
申込方法｜お電話（088-866-8000）にてお申し込みください。定員に達し次第、受付は終了いたします。

02.　サタデー・レクチャー「浜田浄の独自性（仮）」

日時｜3 月 15 日（土）13：30－14：30
会場｜1 階 講義室［参加無料・予約不要］
講師｜塚本麻莉（当館学芸員、本展企画者）

03.　担当学芸員によるギャラリートーク

日時｜2 月 23 日（日）、4 月 6 日（日）13：30－
会場｜2 階 浜田浄展会場［要観覧券・予約不要］

04.　ティーチャーズ・ウィーク

会期中、高知県内の教職員の方（図工・美術以外も含む）は本展及びコレクション展を無料でご覧いただけます。希望者には学校での美術館利用についてのご相談も承ります。

期間｜2 月 22 日（土）－2 月 28 日（金）［要予約］
申込方法｜お電話（088-866-8000）にて 2 月 15 日までにお申し込みください。

05.　ベビーフレンドリーアワー

主に 0〜2 歳ぐらいのお子さまとその保護者さまが気兼ねなく、安心して鑑賞できるよう配慮した時間です。10：30 と 11：30 より参加自由のミニギャラリートークがあります。

対象｜主に 0〜2 歳児のお子さまとその保護者（きょうだい児もご参加いただけます）
日時・定員｜3 月 7 日（金）・8 日（土）、9：30－12：00。各回 5 組
申込方法｜開催の前日までに、電話（088-866-8000）か申込フォームにてお申し込みください。申込フォームの詳細は、後日当館ウェブサイトにてお知らせします。

▼　会期中の催し

同時開催

※三嶽伊紗展とコレクション展は、浜田浄展の観覧券で鑑賞可能

●企画展

「ARTIST FOCUS #05 三嶽伊紗 カゲ ヲ ウツス」

会期｜2024 年 12 月 17 日（火）〜 2025 年 2 月 21 日（金）
https://moak.jp/event/exhibitions/artistfocus_05.html
高知市出身の美術作家、三嶽伊紗（みたけ・いさ、1956－）の個展です。
＊ARTIST FOCUS とは・・・ジャンルや年齢を問わず、当館学芸員が推薦した高知ゆかりの作家を紹介する展覧会シリーズ

三嶽伊紗
《化石／昨日 ヲ ウツス カゲ ヲ ウツス》
2020-2024 年　撮影：河上展儀

●コレクション展

「コレクション・アラカルト ⑤」（オスカー・ココシュカ、絵金等）
石元泰博・コレクション展「雪のシカゴ」後期

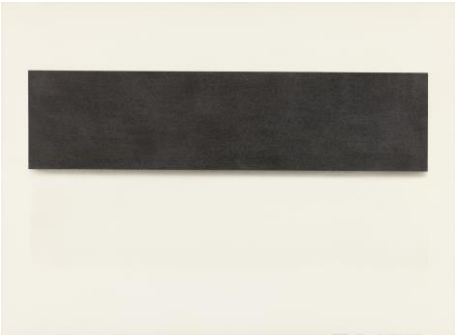
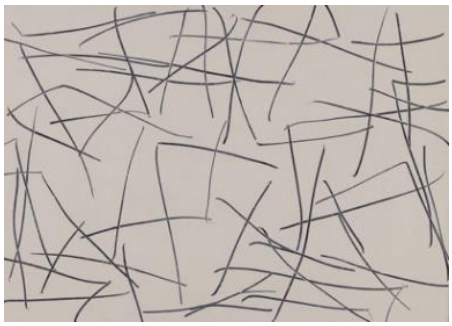
会期｜2 月 8 日（土）〜4 月 13 日（日）

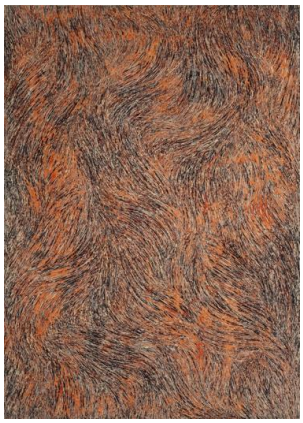
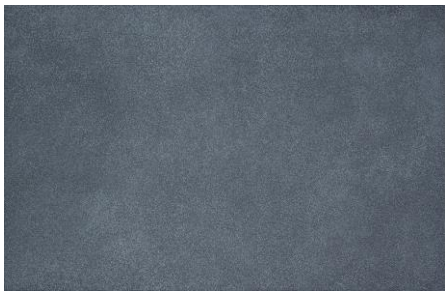
	●ホール公演 **contact Gonzo × dot architects'「the storm」** contact Gonzo Meets KOCHI 2024-2025 日時｜2025 年 2 月 22 日（土）19:00 開演（18:30 開場） 会場｜高知県立美術館ホール https://moak.jp/event/performing_arts/the_storm.html
同時開催・相互割引	**●冬の定期上映会「没後 30 年　俳優 川谷拓三特集」** 浜田浄展の鑑賞券または半券をお持ちの方は、当上映会を前売料金で、当上映会のチケット又は半券をお持ちの方は浜田浄展を団体料金でご覧いただけます。 上映日｜2025 年 2 月 15 日（土）・16 日（日） 会場｜高知県立美術館ホール https://moak.jp/event/performing_arts/post_532.html
特別企画	＼ 現代地方譚×高知県立美術館 ／ **高知県須崎市のアーティスト・イン・レジデンス事業「現代地方譚 12　小さきに宿る」の開催期間中、すさきまちかどギャラリー／旧三浦邸にて、高知県立美術館で個展を行う浜田浄、三嶽伊紗の小品を特別展示します。** **また、関連企画「商店街の日常に挿む小品展」で行うスタンプラリーに参加し、スタンプを集めた方に、高知県立美術館の浜田浄展・三嶽伊紗展の招待券をプレゼントします（先着順、数に限りがあります）。** **●「現代地方譚 12　小さきに宿る」［観覧無料］** 開催期間｜2025 年 1 月 18 日（土）～2 月 16 日（日）10:00－17:00 月曜休館 Artists｜赤木 遥／阪上洋光／浮／大薗彩芳／平野史恵／濵田明李 メイン会場｜すさきまちかどギャラリー／旧三浦邸（高知県須崎市青木町１－１６） 主催｜すさき芸術のまちづくり実行委員会 共催｜すさきまちかどギャラリー／旧三浦邸 協力｜高知県立美術館 お問合せ｜すさきまちかどギャラリー／旧三浦邸　050-8803-8668 URL｜https://airsusaki.machikado-gallery.com **現代地方譚 関連企画｜商店街の日常に挿む小品展** （会期：1 月 18 日～2 月 16 日、観覧無料、公開日時は各店舗の営業日時に準じます） 過去の「現代地方譚」作品のうち、ギャラリーや市民が所有しているコレクションを商店街のお店で展示します。社会の高齢化や地域の再開発で、見慣れた須崎の街並みにも変化がもたらされようとしています。展示を巡りながらこのまちの旧来の姿を懐かしみ、これからのまちの在りようを考える企画です。

▼ 広報用画像

・ご希望の画像の番号（1〜7）をお知らせください。作品のトリミングについては要相談です。
・必ず下記のキャプション（太字下線は必須）もご掲載ください。
・掲載時には、正式な展覧会名と会期の表記をお願いいたします。
・掲載記事や VTR は展覧会開催の資料として保存しますので、若干部ご恵与ください。

【お問合せ先】
高知県立美術館（高知県高知市高須 353-2） tel 088-866-8000 / fax 088-866-8008
学芸課 展覧会担当 塚本麻莉 mari_tsukamoto@kochi-bunkazaidan.or.jp

	【広報用画像 1】 浜田浄《work 80-B-4》1980 年、高知県立美術館蔵 紙・シルクスクリーン、66.0×66.0 cm 合板絵画のイメージを版表現へと展開させた作例のひとつ。画面を分割する朱色のラインには、故郷・黒潮町の入野海岸の水平線のイメージが投影されている。
	【広報用画像 2】 浜田浄《DRAWING No.1》1980 年、東京国立近代美術館蔵 紙・鉛筆 75.5×106.3 cm 1980 年代初頭、制作工程の大半を職人に任せる版画制作に違和感を覚え、鉛筆での制作に転じる。一方向のストロークのみを厚いワトソン紙の上に引き続けて生まれる鉛色の矩形は、時間そのものを塗り込めたかのような迫力を有している。
	【広報用画像 3】 浜田浄《90-14-K》1990 年、個人蔵 紙・カンヴァス・油絵具 65.0×92.0 cm 1986 年から、浜田は鉛筆を絵筆に持ち替え、タブローの制作をはじめる。自らの身体の動きを反映した即興的なストロークには、開放的な気分が満ちている。

	【広報用画像 4】 浜田浄《98-10-24（1)》1998 年、個人蔵 パネル・カンヴァス・紙・油絵具　105.0×75.5 cm 1990 年代後半から、浜田は紙を貼ったカンヴァスの上に厚い下地をつくり、その下地表面を波形に削り取るという制作方法を採用した。こうした引き算的な描法が、豊かな物理的質感を絵肌にもたらした。波形のストロークは、幼少期に親しんだ浜辺での潮の満ち引きから着想を得ている。
	【広報用画像 5】 浜田浄《15-D-4》2004 年、個人蔵 紙・カンヴァス・油絵具　105.0×75.5 cm カンヴァスに重層的に貼り重ねた紙を慎重に剥がすことで作り上げた絵肌は、繊細な差異を呈するディテールの集積として、見る者に強い印象を残す。
	【広報用画像 6】 浜田浄《23-G-21》2011 年、作家蔵 カンヴァス・油絵具　152.0×228.0 cm 画面は油絵具による密度のある点描によって構築されている。制作に要した膨大な時間を視覚的に示す作例。
	【広報用画像 7】 浜田浄《27-2-21》2015-2024 年、作家蔵 合板・アクリル絵具・コーヒー　91.0×91.0 cm 2013 年以降、浜田の作品にはそれまでにない「かたち」が表れるようになった。本作は、垂らした墨汁の周囲を板木のように削り取った板を組み合わせたもの。有機的なかたちが繰り返され、独自のリズムが感じられる。